



協調学習における課題の設定について

児童生徒が自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することがアクティブ・ラーニングにおいては欠かせない。次の①～④は、探究活動のプロセスを示したものであり、①②は特に重要である。

- ①児童生徒が自分で課題を見付ける（課題の設定）
- ②自分で必要な情報を収集する（情報の収集）
- ③集めた情報を整理・分析する（整理・分析）
- ④気付いたことや考えたことをまとめて発表・表現したり、考えたことを行動に移したりする（まとめ・表現）

課題の設定

学びにおいて重要なのは動機付けである。教員から与えられた資料ではなく、自らの気付きや疑問を出発点にした活動であれば、児童生徒の学習意欲は更に高まり、本気の学びとなる。

課題設定方法例
①

体験活動を通して、不思議に思ったり、疑問に感じたりしたことをカードに書き出すとともに、そのカードをKJ法的手法で仲間分けするなどして課題を明らかにしていく。

課題設定方法例
②

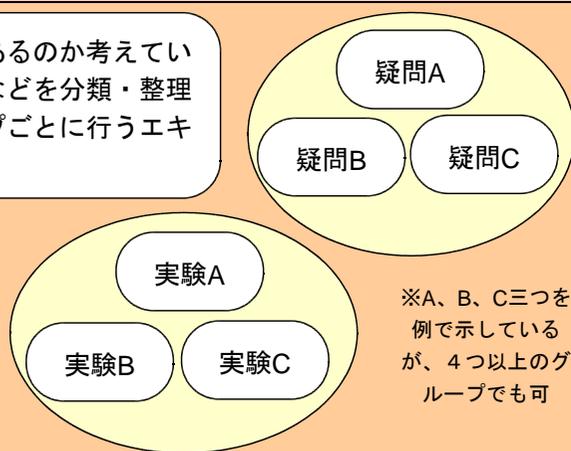
セントラルワードから言葉を関連付けてウェビングマップ（思考ツール）を完成させ、その言葉に関する興味や関心を言語化して課題を設定していく。

課題の解決に向けて①

設定した課題を解決するために、どのような方法等があるのか考えていく際に思考ツールを活用し、児童生徒の気付きや疑問などを分類・整理して右図のようにグループ分けする。課題解決グループごとに行うエキスパート活動へと発展させる。

※文部科学省視学官
：田村 学著「授業を磨く」東洋館出版から部分引用

例えば、理科では、児童生徒にさまざまな事象を見せ、自分たちで課題を見つけ、仮説を立てることから始め、エキスパート活動で実験・観察をし、分かったことを持ち寄ってジグソー活動を行う授業が考えられる。



情報の収集

整理・分析

まとめ・表現

エキスパート活動

ジグソー活動

クロストーク活動

自ら探究的な学習をつくる・学習意欲が高揚する

※限られた授業時間を有効に使うためにも課題の設定には、ミライシードが有効である。キーワードの集計機能を使えば、学級全員の児童生徒の意見を瞬時に分類できる。課題の解決に向けた段階においても、児童生徒のグループ分けができる。